

学年	3	単位数	3	授業形態	習熟度別
教科書 (出版社)	新編数学Ⅱ (数研出版)		副教材等 (出版社)	新課程 教科書傍用 (数研出版)	3TRIAL 数学Ⅱ

学習目標

- 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 微分法・積分法についての基本的な概念を理解し, 数学的に表現・処理する技能を身に付ける。
- 既習事項を活用して, 事象を論理的に考察し, 分かりやすく表現することができる。
- 主体的に学習を進め, 様々な場面で数学を活用しようとする態度を身につける。

学習方法

- 様々な物事に対して「なぜ?」という疑問をもち, 1つ1つの「なぜ?」の理由を明らかにしていくつもりで学習を進めましょう。
- 物事を論理的に考えて, 自分の考えを相手に分かりやすく言葉や文字で伝えることを意識しましょう。
- 必要に応じて, 算数や中学数学の復習もしながら学習を進めましょう。

学習評価	評価の観点		評価の観点の趣旨			
	ア	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			
	イ	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。			
	ウ	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。			

観点	評価方法	①	②	③	④	⑤	⑥
		授業の様子 発表・発言	小テスト	提出物の 取り組み状況	レポート課題	単元考査 実力考査	考査後の 振り返り
	ア	○	○			○	
	イ	○			○	○	
	ウ	○		○			○

学習計画

学期	編・章	単元	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法
				ア	イ	ウ		
前期中間	オリエンテーション					○		④
	第3章 図形と方程式	第2節 円	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円	○	○	○	・与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。 ・円と直線の位置関係や2つの円の位置関係を, 2次方程式の実数解の個数や2点間の距離の公式を用いて考察することができる。	①②③
		第3節 軌跡と領域	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	○	○	○	・直線や円を境界とする領域を図示することができる。 ・線形計画法の問題を考察することができる。	①②③④
	単元考査1			○	○			⑤⑥
前期期末	第5章 指数関数と 対数関数	第1節 指数関数	1. 指数の拡張 2. 指数関数	○	○	○	・拡張した指数の定義を理解し, 指数法則を利用した四則計算ができる。 ・指数関数のグラフの概形や性質をもとに考察することができる。	①②③
		第2節 対数関数	3. 対数とその性質 4. 対数関数	○	○	○	・対数の定義を理解し, 対数の性質を利用した四則計算ができる。 ・対数関数のグラフの概形や性質をもとに考察することができる。	①②③
			5. 常用対数	○	○	○	・常用対数表を用いて, 様々な対数の値を求めることができる。 ・常用対数を利用して, 桁数問題や小数首位問題を解くことができる。	①②③④

		単元考査 2		○	○		⑤⑥
後 期 中 間	第 6 章 微分法と 積分法	第 1 節 微分係数と 導関数	1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	○	○	○	・関数を微分することができる。また、微分係数を求めることができる。 ・導関数を利用して接線の方程式を考察することができる。 ①②③
		第 2 節 関数の値の変化	4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減とグラフの応用		○		・3次関数のグラフを描くことができる。また、3次関数のグラフを用いて具体的な事象に関する問題を考察することができる。 ①②③
		単元考査 3		○	○		⑤⑥
後 期 期 末		第 3 節 積分法	6. 不定積分 7. 定積分	○		○	・不定積分や定積分を求めることができる。 ①②③
			8. 定積分と面積		○		・直線や曲線で囲まれた部分の面積を求める定積分の式を表現して求めることができる。 ①②③
		単元考査 4		○	○		⑤⑥